島根県水産技術センター　漁況情報　平成22年11月9日発行

トビウオ通信　（H22第８号）

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/　　(TEL 0855-22-1720)

《平成22年度下半期浮魚中長期漁況予報》

平成22年10月に長崎市において開催された東シナ海～日本海南西海域にかけての対馬暖流域における主要浮魚類の長期漁況予報会議の内容を基に、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚の平成22年度下半期（11～3月）の中・長期的な漁模様の予測をします。

山陰沖における漁況（来遊）予報〔平成22年度下半期（11～3月）〕

マアジ：前年を上回る　　マサバ：前年並み
マイワシ：前年並みで散発的に漁獲される
カタクチイワシ：前年並み　　ウルメイワシ：前年を下回る

※平年：過去5年間の平均値

マアジは前年を上回る

東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後　平成19年まで減少傾向にあった東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマアジの漁獲量は平成20年からやや増加傾向に転じ、平成21年は前年並みでした（図1）。11～3月期の沖合域の漁況は大中型まき網による銘柄別水揚動向から判断し、前年並みとみられています。

一方、同海域の沿岸域における平成22年4～8月期の漁獲状況は、前年・平年並みであり、今後の漁況も前年・平年並みと予測されています。

山陰沖の漁況と今後　島根県の中型まき網による平成12年以降のマアジ漁獲量は3万トン前後で推移しています。平成22年9月までのマアジの漁獲量は約1万1千トンで、前年同期の4割、平年同期の5割と低調でした。これは春季の海水温の昇温が遅く、マアジの来遊時期が例年より1ヶ月以上遅れたことが主因と考えられます（図2）。

例年、11～3月期は0・1歳魚が漁獲の主体ですが、2歳魚以上も漁獲されます。毎年、島根県、鳥取県および日本海区・西海区水産研究所が行っているマアジ新規加入量調査※（マアジ0歳魚の山陰沖への来遊量を調べる調査）の結果では、来遊量の多寡を示す加入量指数が、平成20年以降いずれも前年を上回る傾向にあります。従って、0歳魚（H22年生まれ）・1歳魚（H21年生まれ）・2歳魚（H20年生まれ）とも前年を上回る豊度と考えられることから、全体として来遊量は多く、11～3月期の漁況は、前年（約4千トン）を上回ると推定され、漁場形成が良好であれば平年（約8千トン）程度の漁況は期待できるでしょう。

※マアジ新規加入量調査の詳細については「トビウオ通信H22年第6号」をご覧くだ

さい。

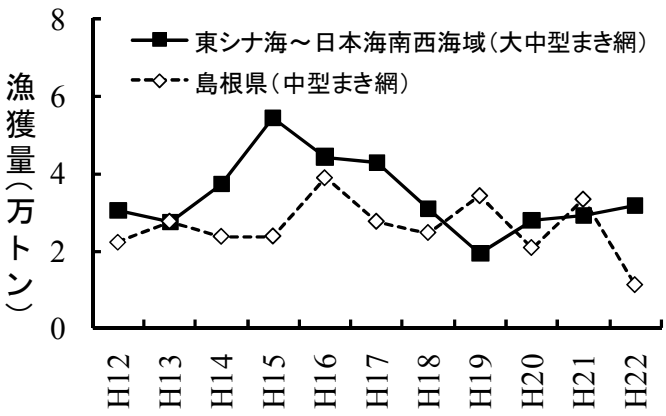

図 1. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）および島根県（中型まき網）のマアジ漁獲量の推移
※H22 は 9 月までの集計値

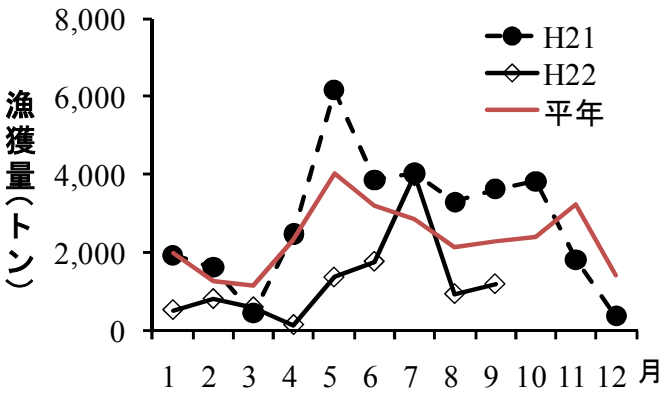

図 2. 島根県の中型まき網によるマアジの月別漁獲動向

マサバは前年並み

東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマサバの漁獲量は、H19 年以降増加傾向にあり、平成 21 年も前年を上回りました（図 3)。平成 22 年は 9 月までの漁獲量が約 2 万トンでした。11～3 月期の沖合域の漁況は大中型まき網による銘柄別水揚動向から判断し、前年並みとみられています。

島根県の中型まき網によるマサバの漁獲量は平成 17 年以降増加傾向にありますが、平成 22 年の 9 月までの漁獲量は約 3 千トンで、前年同期の 4 割、平年同期の 5 割と低調でした（図 4)。例年、10 月以降が主漁期となり、0 歳魚主体の漁獲で 1 歳魚以上が混じります。これまでの漁況の経過から 0 歳魚（H22 年生まれ）の豊度は前年並み、1 歳魚（H21 年生まれ）は前年を下回るとされています。11～3 月期の漁況は冷水域の張り出し具合にもよりますが、前年（約 6 千トン）並みと推定されます。

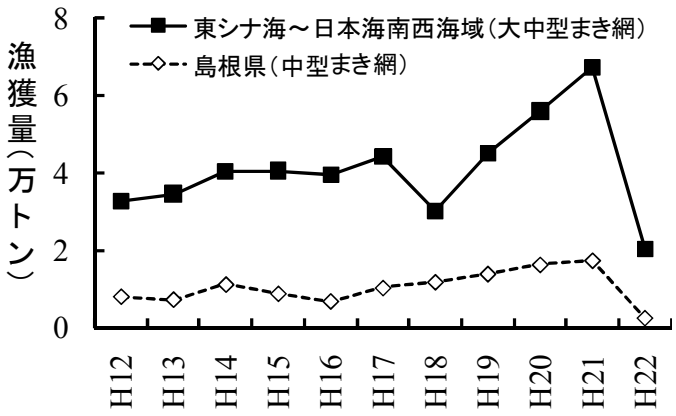

図 3. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）および島根県（中型まき網）のマサバ漁獲量の推移
※H22 は 9 月までの集計値

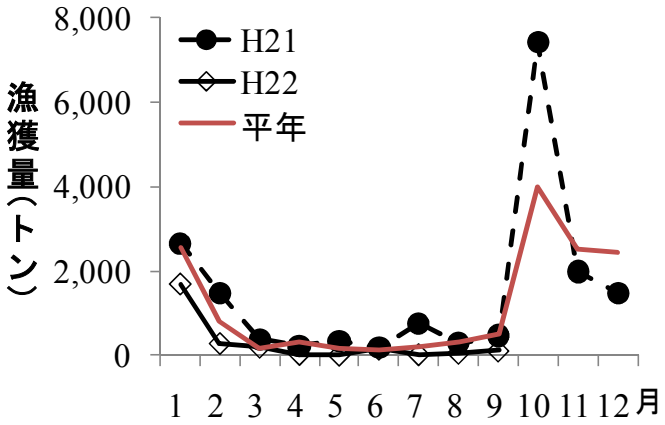

図 4. 島根県の中型まき網によるサバ類の月別漁獲動向

マイワシは前年並みで散発的に漁獲される

島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は平成 15 年以降ゆるやかな増加傾向にあります。平成 22 年は 3 月～5 月に 1 歳魚（H21 年生まれ）を主体に散発的な漁況が続き、9 月までの漁獲量は約 3 千トンで、前年同期の 6 割、平年同期の 1.2 倍でした（図 5)。山口県～長崎県の沿岸域では、4～8 月期は前年並みの漁況で散発的な漁獲が続き、今後も同様の傾向が続くと考えられています。よって、本県沿岸においても 11～3 月期は散発的な漁獲が続き、前年（約 8 百トン）並みの漁況と予測されます。

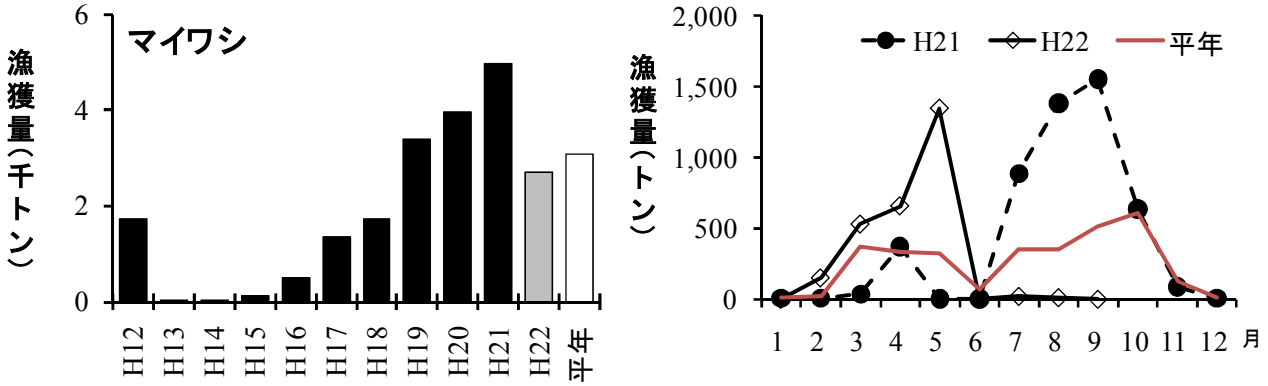

図 5.　島根県中型まき網によるマイワシの漁獲動向（左図は年別漁獲量、右図は月別漁獲量を示す）※H22 年は 9 月までの集計値

カタクチイワシは前年並み

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、平成 13 年以降増減しながら低調に推移しています。平成 22 年は 4～5 月に 1 歳魚を主体にまとまって漁獲され、9 月までの漁獲量は約 1 万 4 千トンで、前年同期・平年同期の 1.5 倍でした（図 6)。

過去 5 年間でみると、11～3 月期は 3 月以降が主漁期で、1・2 歳魚が漁獲の主体となります。山口県～鹿児島県におけるこれまでの漁況の経過からカタクチイワシの H21 年春生まれは前年を上回り、前々年並みとされています。従って、11～3 月期の漁況は、3 月が主漁期になり、前年（約 3 千トン）並みと推定されます。

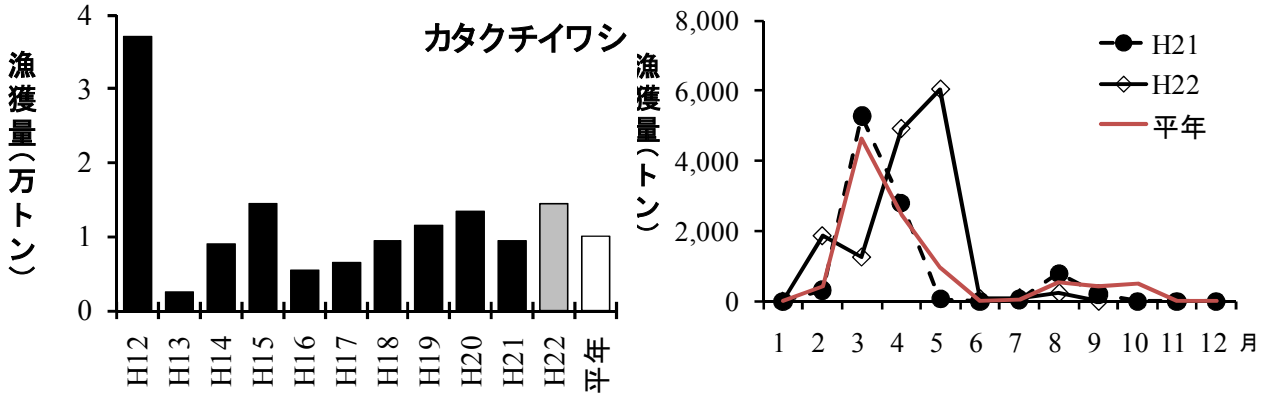

図 6.　島根県中型まき網によるカタクチイワシの漁獲動向（左図は年別漁獲量、右図は月別漁獲量を示す）※H22 年は 9 月までの集計値

ウルメイワシは前年を下回る

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、平成 14 年以降 4 千トン前後で安定して推移しています。平成 21 年は 5～6 月に 1 歳魚を主体にまとまって漁獲され、9 月までの漁獲量は約 4 千トンで、前年同期の 1.1 倍、平年同期の 1.5 倍でした（図 7）。

例年、11 月～3 月期は 0･1 歳魚が漁獲の主体となります。山口県～鹿児島県におけるこれまでの漁況の経過から、0 歳魚（H22 年生まれ）の豊度は前年を下回り、1 歳魚（H21 年生まれ）も前年を下回ると考えられています。従って、11～3 月期の漁況は、前年（約 2 千トン）を下回ると推定されます。

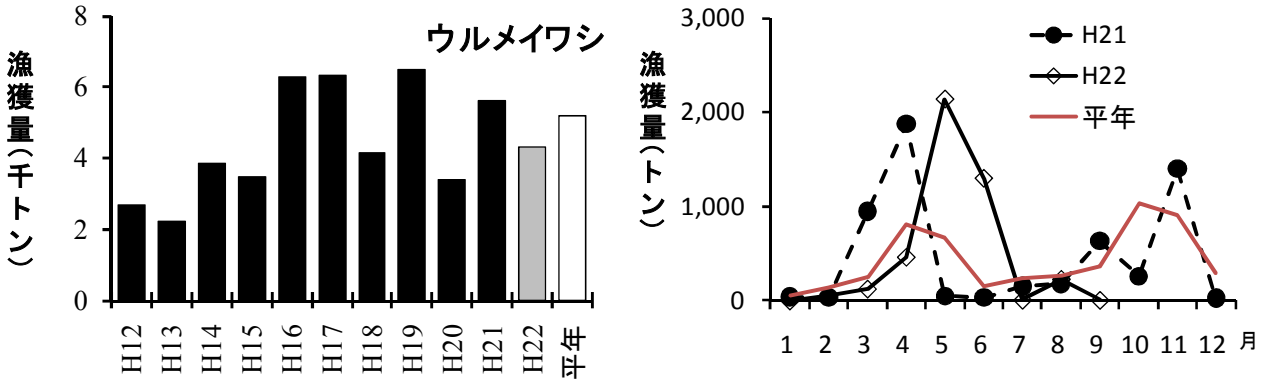

図 7.　島根県中型まき網によるウルメイワシの漁獲動向（左図は年別漁獲量、右図は月別漁獲量を示す）※H22 年は 9 月までの集計値